仮面ライダー翼 FOREVER×仮面ライダーW RETURNS　究極のガイアメモリ

ログ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー翼　ＦＯＲＥＶＥＲ×仮面ライダーＷ　ＲＥＴＵＲＮＳ　究極のガイアメモリ

【Ｎコード】

Ｎ１８４８Ｗ

【作者名】

ログ

【あらすじ】

ついに、翼の最終章！！

翼の究極の力「ＥＬＥＭＥＮＴ」を解き放て！！

そして、Ｗも登場！

二つの作品がクロスして、地魔族を倒せ！

俺は、地魔族と戦いを続けていた。
地魔族の攻撃は終わりそうにもない。
そんな戦いが続き、俺は疲れ果ててしまい、今倒れてしまった。
そのことに気づいた俺の相棒「スカイ」は俺の傍に駆け寄った。
スカイ「おい・・・ヒュウガ！ヒュウガ！」
ヒュウガ「・・・・。」
チウォリアー「グガガ！グガガ！翼！これで終わりだな！！」
チウォリアーが俺達に攻撃しようとした瞬間に・・・。
ありえないほどの風が吹いた。
ゴォォォォォォォォォォォォォォォン！
？「さぁ！お前の罪を、数えろ！」

スカイ「なんだ・・・お前！」
？？？？？「僕たちは、二人で一人の・・・」
？？？「仮面ライダーだ！」
スカイ「お前も・・。仮面ライダー・・？」

「ジョーカー　マキシマムドライブ」
？「ジョーカーエクストリーム！！！」
謎のライダーは、チウォリアーをキック攻撃で倒した。
？？？？？「一件落着だ。」
？？？「そいつを運ぶぞ！手伝え！」
スカイ「分かった。」

そのライダーの名前は仮面ライダーWという。
変身者は左翔太郎とフィリップ。
この風都に平和をもたらしたって聞いた。

翔太郎「で、その地魔族ってやつと戦ってるわけか。」
スカイ「そういうこと。」
フィリップ「今、検索したんだが・・・・地魔族は人間ではないらしい。しかし、生み出したのは人間だ。」
この人たちは、探偵だったのか。
翔太郎「どういうことだ、それは。」
フィリップ「本の内容によると、あるドーパントが暴走してできたドーパントの子供のようなものだ。」
翔太郎「メモリの名は？」
フィリップ「WOOD（ウッド）。木という意味だ。多分、ドーパントは暴走して元に戻れないのだろう。」
翔太郎「スカイ・・だっけ。そいつの居場所はわかるのか？」
スカイ「着いて来い。あ、ちょっと待て。」
私はメモリとなって、ヒュウガの額に刺した。
ヒュウガ「・・・！着いて来い。分かったな。」
フィリップ「メモリになれる存在・・・興味深い！」
ヒュウガ「行くぞ！」
翔太郎「・・・。」

目の前にはチウォリアーが大量にいた。
翔太郎「早く倒そうぜ！フィリップ。」
フィリップ「行くよ。翔太郎。」
翔太郎&フィリップ「―――――変身！！」
「サイクロン・ジョーカー」
W「さぁ！お前の罪を数えろ！！」

俺達はチウォリアーを倒していく。
フィリップ「エクストリィィィィィィィィィィィィィィッム！」
「エクストリーム」
俺達は一つになって、エクストリーム形態となった。
「エクストリーム・マキシマムドライブ」
W「ダブルエクストリーム！！！」
エクストリームの必殺キックを放った。
チウォリアーを全て倒した。

スカイ「少し手荒いが・・まぁ、仕方ない。」
「翼」
スカイ「変身。」
私はヒュウガの体から抜け、ヒュウガを翼へと変身させた。
翼「地魔族、観念しろ。」

W「行くぞ！」
翼「分かった。」

地魔族のアジトにはたくさんのチウォリアーがいた。
私たちはそれを次々と潰していく。
「翼　マキシマムドライブ」
翼「はぁぁぁぁぁぁっ！！！！」
W「そらぁっ！」
こんな感じで倒していった。

チウォリアーを全て倒したとき、とてつもない地響きが起こった。
翔太郎「なんだっ？」
翼「――WOODか！」
WOOD「その通りだぁぁぁ！貴様らぁぁぁぁ！俺の邪魔をするな

ぁぁぁぁぁぁぁぁ！」
フィリップ「話し方が照井竜そっくりだ・・・。」
WOOD「お前らを潰す・・！」

ヒュウガ「――――おい、スカイ。俺に変われ。」
スカイ「分かった。」
やっと、ヒュウガが目覚めた。
戦いはヒュウガのほうが上手いから、ヒュウガに変わるとしよう。

翼「行くぜ！！！」
バシィ！
ドガァァン！
W「そらぁ！」
ドバァン！
ズサァ！
2ライダーの蹴りが入る。

WOOD「死ねぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！」
WOODは手に付いていた蔓を長く伸ばし、ムチのように攻撃する。
W「ぐわぁぁ！」
翼「あああぁぁぁ！――――――そういえばWOOD、お前は何でこんなことをする！」
WOOD「俺に・・・・・俺に・・・・・質問をするなぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！」
フィリップ「この反応――照井竜か？」
翔太郎「照井だろうな・・・・・。」
翼「――――一気に決める！！空よ！風よ！俺に力を――――！力をくれ――！」
スカイ「――――う・・・うあああぁっぁぁぁっぁぁぁぁぁぁぁっぁぁぁぁぁ！」

スカイの様子が突然おかしくなった。
「ELEMENT」
突然、そんな音がなり、俺の体が金色になった。
そして、羽が巨大化した。
翔太郎「俺達にも力が宿っていく―――！」
WもゴールドエクストリームＥとなった。
「ELEMENT　マキシマムドライブ」
「エクストリーム　マキシマムドライブ」
俺達は、究極の必殺キックを放った。
WOODに強い蹴りを入れる。
すると、強い爆発が起こった。
蔓や茎が燃えていく。
WOOD「ああああああぁぁぁぁぁぁぁぁっ！」
俺達は、その場から去った。

―――風都。
竜「おい、左。」
翔太郎「なんだ？照井。」
竜「さっき、空のほうで多きな音がしたが、なんだったんだ？」
翔太郎「地魔族の崩壊――。」
竜「地魔族―――だと？そのボスはWOODか？」
翔太郎「お前―――何か知ってるのか？」
竜「俺の弟だ。照井仁。井坂に復讐を誓って、ガイアメモリに手を出したんだ。」
翔太郎「正義の家族にも、悪はいるんだな―――。」
竜「お前は一番良く分かってるだろ。園咲家のこととか。」
翔太郎「そうかもな。」

スカイ「私の役目はこれで終わった。」
ヒュウガ「おい、どういうことだよ？」
スカイ「戦いは終わった。いったん天空界へ戻る。またそっちへ行くから安心しろ。」
ヒュウガ「分かった。」
スカイはメモリとなって空の中に消えていった。

ヒュウガ「あ〜！いい風が吹く！！」

また会えるよな――――。
きっと。
この――風都で。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1848w/

仮面ライダー翼 FOREVER×仮面ライダーW RETURNS　究極のガイアメモリ

2011年10月9日14時57分発行